

～感謝の気持ちでいっぱい～
新宮地域成人式

8/14 (金)



新宮公民館で新成人6人が参加して成人式が行われました。式典では篠原市長が社会人としての心構えを述べた後、新成人を代表して宇田匡佑さんが新成人としての決意を述べました。式典後は、同級生や中学生時代の恩師との再会に会話も弾み、楽しいひとときを過ごしていました。

～ご冥福をお祈りします～
愛媛県戦没者追悼式

8/15 (土)



全国各地で戦没者の追悼式が行われました。本県では、ひめぎんホールで開催され、本市からは75人の遺族のみなさん、市長、市議会議員が参列しました。また、市内各所にある慰霊塔や慰霊碑にも朝早くから多くの市民が訪れ、戦没者の冥福と世界の平和を祈りました。

就活!! 四国中央市
企業合同就職説明会 in 松山

8/8 (土)



四国中央市企業合同就職説明会が松山市総合コミュニティセンターで開催されました。当日は地元の企業など36社が工夫を凝らしたブース展示と、若手職員による積極的な話し掛けが行われ、県内外から参加した56人の学生からも、熱心な質問が繰り返されるなど、盛況の内に幕を閉じました。

～逃げ回るあまごに悪戦苦闘～
てらの湖畔広場感謝祭

8/9 (日)



富郷町津根山のてらの湖畔広場で夏の感謝祭が開催されました。会場では、いのししバーベキューや田舎料理の販売、産直市などが行われ、多くの家族連れで賑わいました。また、あまごのつかみ取りが行われ、5ヶ所四方のプールで、子どもたちが水しぶきを上げながら、あまご取りに奮闘していました。

～地域のみんで国体を迎よう～
国体啓発壁画完成記念式典

7/26 (日)



国体啓発壁画完成記念式典が関川公民館で開催されました。これは、えひめ国体の広報活動の一環として、土居中学校美術部員が関川公民館の壁画に国体PRペイントを施したものです。制作に参加した生徒たちは、「とても楽しい良い思い出ができてよかったです」と話していました。

～全国大会上位入賞目指して～
トラックドライバーコンテスト

7/28 (火)



愛媛県トラックドライバーコンテストの11tトラック部門で優勝した、ダイオロジスティクス株式会社(沖本充司代表取締役社長)の森川貴文さんが市長を表敬訪問しました。森川さんは、「優勝できたのは会社の後押しのお陰。全国大会では上位目指して頑張ります」と力強く抱負を話していました。

～食の安心・安全を目指して～
一日食品衛生監視員事業

7/30 (木)



コープえひめ土居店で「一日食品衛生監視員」事業が行われました。これは、8月の食品衛生月間を控え、四国中央地区食品衛生協会(石川正光会長)が四国中央保健所と協力して実施したもので、一日監視員の土居婦人会のみなさんが、主婦の目線で店舗内の衛生状態などを点検しました。

三島地区防災訓練・
おやこ防災フェア

8/2 (日)



三島地区防災訓練・おやこ防災フェアが三島小学校で開催されました。これは三島地区連合自治会と三島地区社会福祉協議会による防災訓練で、大地震を想定して行われました。集まった参加者たちは、消火訓練や煙体験ハウスなどの訓練を体験して、いざという時に備えて取り組んでいました。

～情熱あふれる演技を披露～
第16回四国高等学校演劇祭

7/19 (日)



市民会館川之江会館で、四国高校演劇祭が行われました。今回は、地元の川之江高等学校のほか、松山東高等学校、丸亀高等学校、阿波高等学校、高知西高等学校の5校が参加して行われ、訪れた観客は、高校生たちの若さと情熱あふれる演技に、惜しめない拍手を送っていました。

～ボーイスカウトの世界大会～
世界スカウトジャンボリーに参加

7/22 (水)



ボーイスカウトの世界大会である第23回世界スカウトジャンボリーに参加する高校生らが、市長を表敬訪問しました。この大会は4年に1度世界各国で開催されており、161の国と地域から約3万人の青少年が参加して、約2週間にわたってキャンプをしながら交流を深めます。

～愛媛県代表チームに2選手～
NPB ガールズトーナメントに出場

7/23 (木)



NPB ガールズトーナメント2015に愛媛県代表選手として出場する、神野百花さん(小富士小学校6年・写真右)と大西実玖さん(中曽根小学校6年・写真左)が、市長を表敬訪問しました。代表チームでは、神野さんが主将で捕手、大西さんが投手を務めます。

～工事の安全を祈って～
新宮小中学校起工式

7/24 (金)



新宮町新宮(旧新宮小学校跡地)で新宮小中学校の建て替え工事の起工式が行われました。平成28年11月末に完成する予定で、木造2階建て校舎や鉄筋コンクリート造2階建て体育館などを建設します。起工式では、参加した関係者約30人が工事の安全を祈りました。

市長のひとりごと

夏至も過ぎて、夏が真っ盛りになってくると、だんだん暑が短くなってくることを実感することがある。久しぶりに県庁へ行った。帰りは少し遅くなって、19時を過ぎてしまった。土居インターチェンジを過ぎると、左に伊吹島、正面に荘内半島が燦灘を囲むように延びている。

どんなに暑い日であっても、夕方、まち全体が夕陽を浴びてくる頃には、その日の自分の気分にもよるが、愛しさの情感が出てくる。

まちを支える煙突、混み入った町並み、阿波の境に向かって少しずつ高度を下げていく法皇山脈、その昔伊予が望めたという伊予見峠のある象頭山、まち全体を抱きしめてみたいそんな気分、「自分の生まれ育ったまちの、今、自分が責任者なんだ」という何とも不思議な思い、これが自分の人生かなと若干の違和感を引きずっている自分。ぼんやりと、車の助手席から見えるまさに車窓の風景がある。

ある本に、「思うて詮なきことは思わず」とあったが、詮なきことを、あだこうだと思つから、人生面白いことにもなるのだ。

しんどいことを避けていたら、人間の社会なんて味気ないものにすくなってしまう。私は、割り切れない割り算のように、引きずっていきける範囲は、引きずっていきたくない。整数だけで社会が成り立っているわけではない。

その日は、中村知事に、ダムで大変なご協力とご尽力をいただいた嶺南地域のみなさんの、世代を越えた悲願である「新法皇トンネル」の建設を一生懸命陳情してきた。市民のみなさんも、応援よろしくお祈ります。

市長のひとりごと



四国中央市長
篠原 実
テーマ
立秋